

(19) 平井神社 (ひらいじんじゃ)

住 所：伊賀市小田町131

TEL： 0595-24-4773

参拝日：2013年11月13日

主祭神： 八重事代主命

祭 神： 大山祇神、菅原道真公、建速須佐之男命、武甕槌命、經津主命、
天兒屋根命、天鈿女命、疾風神



鳥居と参道



手水舎

上野城の近くにある住宅街の道路を歩いて行くと“平井天神宮”の額束を掲げた明神造りの石の鳥居があり、参道の右手に手水舎が置かれている。石段の中腹には避水徒民之碑があり、

「わが小田地区は、伊賀の北西部で長田川と柘植・服部川が合流する位置にあるため、古くから水による被害に悩まされ続けてきた。安政地震により地盤沈下してからは、さらに河川の氾濫による水害が度重なり、ついに明治3年（1870）の“午年の水害”で多くの田畑が流失、水死者5人、潰家85戸という大被害を受けた。この時、居住地をそっくり高台に移す計画がなされ移居世話係となった村田順造氏の卓越した指導のもと地区民は一致協力して同6年4月より工事をはじめ同10年7月に完了した。この避水移居事業を成し遂げることに努力した人々の功績を後世に残すため、同12年2月にこの碑が建てられた。」と記されている。

さらに石段を登ると明神造りの石の鳥居の向こうに入母屋妻入り造りの拝殿があり、両側には阿吽の狛犬が守っている。本殿は神明造りで外削の千木と5本の枕木が見える。拝殿の左側には境内社である白瀧稻荷と白河稻荷があり、境内には社務所、神饌所、参籠舎がある。社叢としてはカナメモチ、ツバキ、サクラ、ウメ、サツキ、モミジ、サザンカ、マンリョウ、イチイ、タブノキ、テイカカズラ、サンショウ、スギ、イチョウ、ナンテン、タブノキ、クスノキ、サザンカ、ヒノキ、サカキ、ケヤキ、チャノキ、ヤツデ、イヌマキ、ヤブコウジ、ウルシ、イヌビワ、ヤブニッケイ、エノキ、シュロ、サカキなどがみられる。



鳥居と拝殿



本殿



避水徒民之碑

祭祀は例祭10月25日、春祭3月28日、新嘗祭11月23日、元旦祭1月1日、厄除祭2月1日、田植終了報告祭5月中旬、祇園祭8月1日である。

宝物等：菅公の神像、棟札10枚（寛永2年奉上棟札他）、金幣（宝暦4年奉納）、剣 壺口（長光作元文3年真田弾正幸隆4男隠岐守信伊八代眞川求馬正恒宝剣を献納）、絵馬1枚（江戸末期神田畊雲の画）、随神像（筒井猪久造作）

由 緒：

当社は往古よりの鎮座であり、「伊賀誌」に「孝謙天皇御宇天正勝宝三年（751）伊賀疫行天皇立使以小田庄祭大巳貴命・事代主命於此疫鬼鎮焉」とあり、「平井神社由緒記」に延長元年（923）9月事代主命平井天神宮と須氏神と崇める。」とある。「伊水溫故」「三国地誌」によれば菅原道眞公縁の梅が九州太宰府より飛来したと云う縁起をもち飛来天神宮とも称され旧小田村字東出（往古は平井）に鎮座とある。「兼右卿記」に永禄11年（1568）伊賀国守護職仁木長政の招きにより吉田兼右が京都より上野丸山（旧小田村鉄砲場）の新城の地鎮祭を執行「幣串近所之天神内陣」に奉納とあり、当社のことであると思われる。江戸時代に俳諧連歌の座の中心とされ、延宝3年（1674）9月藤堂藩城和奉行玉置甚三郎、号無端寄進の石燈籠刻名「○氏天端」が現存する。無端は芭蕉が師事した北村季吟につながる俳人で松尾芭蕉の先輩にも当たる。

文久年間に社殿は火災に罹り焼失し再建された社殿も嘉永7年（1854）の大地震に因り地盤沈下し、翌安政2年7月・9月と二度の大洪水に全村民家浸水流出の難に遇った。当村移居係村田順三は旧藩主藤堂家及び県知事に現在地の土地払い下げを嘆願し、明治6年許可なり、地名を明治家敷と名付けた。村民移転の後、明治10年10月神社を建立、平井天神宮（八重事代主命）境内社津島社（素戔鳴尊）並びに同村字西出の春日神社（天兒屋根命・武甕槌神・経津主命・天鈿女命）境内社津島社（素戔鳴尊）更に同村字東出の疾追神社（疾風神）境内社津島社（素戔鳴尊）を合祀し、社名を平井神社と改称した。明治40年5月、同村字往古川の山神社（大山祇神）を合祀した。（伊賀神社誌 伊賀神社庁）